2026 September

第62回日本移植学会総会 The 62nd Annual Congress of the Japan Society for Transplantation

一般演題（ポスター）

P11-6 **腎移植術後早期の貧血が移植腎間質の線維化尿細管萎縮に及ぼす影響についての検討**
中村（なかむら） 信之（のぶゆき）（福岡大学医学部腎泌尿器外科学講座）

P11-7 **アルコール性肝硬変を合併した腎不全患者に対して生体腎移植を施行した１例**
野口（のぐち） 毅朗（たけあき）（横浜市立大学附属市民総合医療センター　泌尿器・腎移植科）

P11-8 **腎移植レシピエントにおける移植後体重変化の臨床的検討**
倉田（くらた） 博基（ひろき）（長崎大学病院　血液浄化療法部）

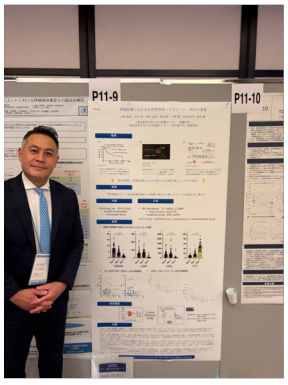
P11-9 **移植医療における急性腎障害バイオマーカー測定の意義**
上野（うえの） 琢哉（たくや）（東京医科大学八王子医療センター　腎臓外科）

P11-10 **生体腎移植術前後における腸内細菌叢の変化の検討**
森（もり） 瑞季（みずき）（秋田大学大学院医学系研究科　腎泌尿器科学講座）

第 62 回 日本移植学会（新宿：京王プラザ）にて発表しました。本会は移植医療の中心的学会であり、東京医大では３回目の主催となりました。当院での移植医療の歴史は長く、開業当初より腎臓移植、肝臓移植を手掛けており、都内でも３施設（当院、慶應義塾大学病院、国立成育医療研究センター）しか行えない膵移植も行っており、国内では代表的な移植施設のひとつです。自身も移植認定医としてこれまで多くの患者さんの手術、治療に携わらせて頂きました。開業してからも脳死ドナーからの膵腎同時移植を含め、シャント形成や動脈表在化、透析カテーテル留置等を移植外科医として、消化器外科手術と併せて継続しております。

学会では、これまでの科研費の主軸にもなっている移植医療における新たな治療対象としての樹状細胞の可能性・有用性を発表してきました。学会期間中は北海道や九州、ボストン時代からの友人にも会う事ができ、2000 人近い移植医が集まる盛大な開催となり、多くの情報交換を含め有意義な時間となりました。





クリニックをご利用頂いている患者さんへの移植医療による直接の貢献は少ないかもしれませんが、都内はじめ大学病院等の高次医療機関との連携は、提供できる診療の質の向上に繋がる事と思っております。自身もこれまで通り大学での診療を通して、クリニックでの診療レベルの維持と更なる知識や技量の向上を目指していきます。

これからもクリニックの診療形態へのご理解ご協力の程、宜しくお願い致します。

院長　上野琢哉